

(確率) =  $\frac{\text{「～とき」の後の何通りか (考えることがおこる場合の数)}}{\text{(全ての場合の数)}}$

【p.36 補充問題2】

6個の数字0, 1, 2, 3, 4, 5のうち異なる4個を並べて4桁の整数を作るとき、次のような整数は何個作れるか。

- (1) 4桁の整数 (2) 4桁の奇数 (3) 4桁の偶数

解説

0は先頭に来れない。

- (1) 千の位は0以外の5通りである。

そのどの場合に対しても、一の位 十の位、百の位の並べ方は ${}_5P_3$ 通り。

よって、求める個数は  $5 \times {}_5P_3 = 5 \times 5 \cdot 4 \cdot 3 = 300$  (個)

- (2) 一の位は1, 3, 5の3通りである。

どの場合に対しても、千の位の選び方は、0と一の位の数字以外の4通りである。

さらに、百の位、十の位には、残り4個の数字から2個取って並べるから、

その並べ方は ${}_4P_2$ 通り。

よって、求める個数は  $3 \times 4 \times {}_4P_2 = 3 \times 4 \times 4 \cdot 3 = 144$  (個)

- (3) 4桁の偶数の個数は、4桁の整数の個数から4桁の奇数の個数を引いたものである。

したがって、求める個数は  $300 - 144 = 156$  (個)

【p.36 補充問題3】

7人の男子と5人の女子から、3人の委員を選ぶとき、次のような場合は何通りあるか。

- (1) 男子が2人以上選ばれる。 (2) 少なくとも男子が1人選ばれる。

解説

- (1) 男子が2人以上選ばれる場合には、男子がちょうど2人選ばれる場合と3人選ばれる場合がある。

ちょうど2人選ばれる場合の数は  ${}_7C_2 \times 5 = \frac{7 \cdot 6}{2 \cdot 1} \times 5 = 105$  (通り)

3人選ばれる場合の数は  ${}_7C_3 = \frac{7 \cdot 6 \cdot 5}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 35$  (通り)

よって、求める場合の数は  $105 + 35 = 140$  (通り)

- (2) 女子が3人選ばれる場合の数は  ${}_5C_3 = \frac{5 \cdot 4 \cdot 3}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 10$  (通り)

よって、少なくとも男子が1人選ばれる場合の数は

$${}_{12}C_3 - 10 = \frac{12 \cdot 11 \cdot 10}{3 \cdot 2 \cdot 1} - 10 = 220 - 10 = 210 \text{ (通り)}$$

【p.36 補充問題4】

8人を次のように分けるとき、分け方は何通りあるか。

- (1) 3人部屋A, Bと2人部屋Cの3部屋に分ける。 (区別あり)  
 (2) 3人, 3人, 2人の3つの組に分ける。 (区別なし)

解説

- (1) 部屋Aの3人の選び方は ${}_8C_3$ 通りある。

部屋Bの3人の選び方は残りの5人から選ぶので ${}_5C_3$ 通り、部屋A, Bの人が決まれば、残りの部屋Cの2人は決まる。

よって、分け方の総数は、積の法則により

$${}_8C_3 \times {}_5C_3 = \frac{8 \cdot 7 \cdot 6}{3 \cdot 2 \cdot 1} \times \frac{5 \cdot 4 \cdot 3}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 56 \times 10 = 560 \text{ (通り)}$$

- (2) (1)の分け方で、同じ人数の組A, Bの区別をなくすと2!通りずつ同じ組分けができる。

よって、分け方の総数は  $\frac{560}{2!} = 280$  (通り)

【p.39 練習32】

大小2個のさいころを同時に投げるとき、すべての目の出方を示せ。

解説

大のさいころに1の目が出て、小のさいころに2の目が出ることを、(1, 2)で表すことにすると、すべての目の出方は、次の36通りである。

- (1, 1), (1, 2), (1, 3), (1, 4), (1, 5), (1, 6),  
 (2, 1), (2, 2), (2, 3), (2, 4), (2, 5), (2, 6),  
 (3, 1), (3, 2), (3, 3), (3, 4), (3, 5), (3, 6),  
 (4, 1), (4, 2), (4, 3), (4, 4), (4, 5), (4, 6),  
 (5, 1), (5, 2), (5, 3), (5, 4), (5, 5), (5, 6),  
 (6, 1), (6, 2), (6, 3), (6, 4), (6, 5), (6, 6)

【p.40 練習33】

1個のさいころを投げるとき、次の場合の確率を求めよ。

- (1) 奇数の目が出る。 (2) 3以上の目が出る。

解説

起こりうるすべての目の出方は、6通りある。

- (1) 奇数の目が出るのは、1, 3, 5の3通りある。

よって、奇数の目が出る確率は  $\frac{3}{6} = \frac{1}{2}$

- (2) 3以上の目が出るのは、3, 4, 5, 6の4通りある。

よって、3以上の目が出る確率は  $\frac{4}{6} = \frac{2}{3}$

【p.34 練習34】

赤玉2個と白玉3個の入った袋から、玉を1個取り出すとき、赤玉の出る確率を求めよ。

解説

玉の出方は全部で5通りあり、このうち赤玉が出るのは2通りある。

よって、赤玉の出る確率は  $\frac{2}{5}$

【p.40 練習35】

3枚の硬貨を同時に投げるとき、次の場合の確率を求めよ。

- (1) すべて表が出る。 (2) 1枚だけ裏が出る。

解説

3枚の硬貨の表裏の出方は、 $2 \times 2 \times 2$ の8通り。

- (1) すべて表が出るのは(オ, オ, オ)の1通り。

よって、すべて表が出る確率は  $\frac{1}{8}$

- (2) 1枚だけ裏が出るのは、以下の3通り。

(オ, オ, ウ), (オ, ウ, オ), (ウ, オ, オ)

よって、1枚だけ裏が出る確率は  $\frac{3}{8}$

【p.41 練習36】

2個のさいころを同時に投げるとき、次の場合の確率を求めよ。

- (1) 目の和が7になる。 (2) 2個とも偶数の目が出る。

解説

2個のさいころの目の出方は、 $6 \times 6$ の36通り。

- (1) 目の和が7になるのは、以下の6通り。

(1, 6), (2, 5), (3, 4), (4, 3), (5, 2), (6, 1)

よって、求める確率は  $\frac{6}{36} = \frac{1}{6}$

- (2) 2個とも偶数の目が出るのは  $3 \times 3 = 9$  (通り)

よって、求める確率は  $\frac{9}{36} = \frac{1}{4}$

【p.41 練習37】

A, Bの2人を含む4人が、くじ引きで順番を決めて横1列に並ぶとき、次の場合の確率を求めよ。

- (1) Aが左端に並ぶ。 (2) Bが左端, Aが右端に並ぶ。

解説

4人全員の並び順は、4!通りある。

- (1) Aが左端のとき、A以外の3人の並び順は、3!通りある。

よって、求める確率は  $\frac{3!}{4!} = \frac{1}{4}$

- (2) Bが左端, Aが右端のとき、A, B以外の2人の並び順は、2!通りある。

よって、求める確率は  $\frac{2!}{4!} = \frac{1}{12}$

【p.42 練習38】

くじが10本あり、そのうち3本が当たりくじである。

- (1) 2本を同時に引くとき、2本とも当たる確率を求めよ。  
(2) 3本を同時に引くとき、3本ともはずれる確率を求めよ。

解説

- (1) 10本から2本引く組合せは、 ${}_{10}C_2$ 通りある。

当たりくじ3本から2本引く組合せは、 ${}_3C_2$ 通りある。

$$\text{よって、求める確率は } \frac{{}_3C_2}{{}_{10}C_2} = \frac{{}_3C_1}{{}_{10}C_2} = 3 \times \frac{2 \cdot 1}{10 \cdot 9} = \frac{1}{15}$$

- (2) 10本から3本引く組合せは、 ${}_{10}C_3$ 通りある。

はずれくじ7本から3本引く組合せは、 ${}_7C_3$ 通りある。

$$\text{よって、求める確率は } \frac{{}_7C_3}{{}_{10}C_3} = \frac{7 \cdot 6 \cdot 5}{3 \cdot 2 \cdot 1} \times \frac{3 \cdot 2 \cdot 1}{10 \cdot 9 \cdot 8} = \frac{7}{24}$$

【p.39 練習39】

大人6人、子ども4人の合計10人の中から抽選で5人を選ぶとき、次のように選ばれる確率を求めよ。

- (1) 大人が3人、子どもが2人                      (2) 子どもは1人だけ

解説

10人から5人選ぶ組合せは、 ${}_{10}C_5$ 通りある。

- (1) 大人が3人、子どもが2人の組合せは、 ${}_6C_3 \times {}_4C_2$ 通りある。

よって、求める確率は

$$\frac{{}_6C_3 \times {}_4C_2}{{}_{10}C_5} = \frac{6 \cdot 5 \cdot 4}{3 \cdot 2 \cdot 1} \times \frac{4 \cdot 3}{2 \cdot 1} \times \frac{5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1}{10 \cdot 9 \cdot 8 \cdot 7 \cdot 6} = \frac{10}{21}$$

- (2) 大人が4人、子どもが1人の組合せは、 ${}_6C_4 \times {}_4C_1$ 通りある。

よって、求める確率は

$$\frac{{}_6C_4 \times {}_4C_1}{{}_{10}C_5} = \frac{{}_6C_2 \times 4}{{}_{10}C_5} = \frac{6 \cdot 5}{2 \cdot 1} \times 4 \times \frac{5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1}{10 \cdot 9 \cdot 8 \cdot 7 \cdot 6} = \frac{5}{21}$$